

令和5年度 練馬区立南が丘中学校 学校評価報告書

練馬区立南が丘中学校
校長 宮田 健史

I 自己評価結果

1 概要

(1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

- ① 生徒自身はその授業のねらいを意識して取り組むことが大切であり、毎回、授業後に「めあて」が達成できたのかを確認する。各教科で行った生徒授業アンケートでは96%が授業のねらいが示されていると回答していた。
- ② 適応推進委員会を中心に、支援が必要な生徒への対応について検討し、外部機関と連絡を密にしてケース会議を開くなどの対応を行っている。学び方を指導するなどして、個に応じた学習指導を進める。
- ③ グループ内でお互いの意見を検討したり、タブレットを用いて発表や意見交換を行う機会を多く設けたりした。さらに対話的協働的な学習を、全教育活動を通して推進していく。
- ④ 発表資料作成等ではタブレットを活用し、書くことが苦手な生徒の意欲や発表内容の向上が見られた。保健体育で自分の動きや理科の実験結果を撮影し、後からでも結果を見ることができるようになるなど、改善することができた。
- ⑤ 明けテストと学習教室の実施に加え、現実的な家庭学習（時間から質への変換）のあり方を検討し、今年度より始める。今後は効果的な学習方法を決め、保護者と共通理解を深め、定着を図る。
- ⑥ 習熟度別少人数授業では、生徒が自分のペースで学習することができるので、この取組を好意的に受け止めている。来年度も効果的に進めていく。
- ⑦ 毎時間、サーキットトレーニングを行い、筋力を付ける取組を保健体育科で行っている。
- ⑧ 不適切な評価を出すことがないように、年度当初に評価計画を提示するとともに、毎学期、教員同士で相互点検も行っている。授業内での評価と結果を生徒に伝え、どうすればより良くなるかを共に考える時間もつくりたい。

(2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

- ① 多様な生徒・保護者に対応できるよう、教員自身が学びを重ねていく。学校では年間3回の生活アンケートや長期休業明けのアンケート、トーキングタイム等を通し、全教員がチームとして生徒対応している。問題発生時の保護者連絡も迅速に行っている。性暴力の防止では全教職員が一丸となって取り組んでいる。
- ② 生徒や保護者の意見を反映させ、学校生活のきまりを改訂している。さらに、来年度から夏用標準服としてポロシャツを導入することを決めた。着用のルールを生徒に考えさせる取組を行う。
- ③ 「あじみこし」について、校内での取組はとても良く、保護者や来校者からも高い評価を受けている。さらに、社会生活の中でも発揮できるよう、「し」の「物事に向かう姿勢」を指導の柱に据える。
- ④ 4月に情報モラル教室を実施したが、スマートフォンを通してのトラブルがあった。未然防止は非常に難しい課題だが、生徒と保護者に正しい使用方法について情報提供し、共通認識をもって取り組ん

でいく。

(3) 夢や希望を育む進路指導

- ① 本年度も職場体験を実施することができた。また、3月に1年生対象に区内で活躍している方を講師にお招きし、「職業人の話を聞く会」を行った。
- ② 生徒の将来の社会的自立を目指し、3年間を見通したキャリア教育が実施できるよう、全体計画・年間計画を構築中である。

(4) 主体的に関わることのできる学校行事、諸活動の実施

- ① 新型コロナウイルス流行以前のような形で、運動会や移動教室、合唱コンクール等の各行事を実施することができた。生徒が中心となって運営する伝統を継続していきたい。
- ② 毎月の生徒会朝礼などを通し、活動方針や内容を積極的に発信している。また練馬区生徒会交流会に参加し、他校の取組を意欲的に学んでいる。
- ③ 部活動については、スポーツ庁・文化庁のガイドラインを遵守し、適切に運営している。

(5) 特別支援教育・小中一貫教育の推進

- ① 合同行事を通して、互いの良さを伝えあうことができた。通常級とのスポーツ交流は3学期の取組である。来年度は年間を通じて行う。
- ② 小中合同の「挨拶運動」を2回、小学生による中学校体験、リトルティーチャーなどの活動を行った。中学校体験の事後アンケートでは、小学生より高評価を得た。来年度も続けていく。

(6) 安全・健康への配慮

- ① 生徒の素早い判断力と行動力を向上させるため、毎月、避難訓練・安全指導を実施している。
- ② 特別教室の不要物・危険物を夏季休業中と2学期に廃棄した。生徒は日々の清掃活動等にしっかり取り組んでいる。
- ③ 今年度、転入した栄養教諭が中心となり、栄養・衛生管理を適切に行った。給食は味もよく、保護者と生徒からも高い評価を得ている。

(7) 地域に開かれた学校づくり

- ① 運動会・文化発表会もPTAの協力により、全学年の保護者に観覧いただくことができた。学校公開も一年を通じて9回行った。
- ② 電話や来客への教職員の対応について、ご意見をいただくこともあったが、全教職員の共通認識を図り、より丁寧な対応ができるよう、改善を進めている。
- ③ 学校だよりやホームページを活用し、積極的に情報発信を行うことができた。
- ④ 学校アンケートからいただいた意見を踏まえて、保護者・地域と連携しながら、学校運営の改善を進めていく。

2 根拠となる資料

令和5年11月実施「学校評価アンケート」の肯定的な意見

(4段階中「そう思う」「やや思う」の割合)。下線は70%に満たない箇所。

NO.	質問	生徒 82.9%	保護者 63.5%	教職員 100%	評議員 77.8%
1	生徒は学校に行くことが楽しいと感じている。	76.5%	74.1%	87.0%	85.7%
2	生徒は安心して学校に通うことができている。	88.5%	83.8%	95.7%	85.7%
3	授業は1時間の「めあて」が明確になっている。	72.0%	72.4%	100.0%	100.0%
4	一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導(はたらきかけ)がされている。	74.1%	70.8%	100.0%	85.7%
5	話し合い活動・発表活動・読書活動など言語活動を重視した授業が進められている。	89.3%	81.6%	95.7%	85.7%
6	生徒用タブレットなどICT機器を活用した授業が進められている。	89.3%	84.9%	78.3%	71.4%
7	明けテストや学習教室を行い、家庭学習の習慣が進むような取組をしている。	83.5%	77.8%	95.7%	100.0%
8	習熟度別少人数学習により、意欲や学力を高める取組が進められている。	85.2%	75.1%	95.7%	100.0%
9	保健体育科の授業を中心に、十分な運動量を確保する取組が進められている。	94.4%	82.7%	95.7%	100.0%
10	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。	83.5%	72.4%	100.0%	85.7%
11	生徒一人一人が大切にされ、生徒の気持ちに寄り添った対応が行われている。	74.5%	70.3%	100.0%	85.7%
12	生徒が学校生活の決まりを守れるよう適切に指導している。	88.5%	85.4%	100.0%	71.4%
13	生徒は「あじみこし」(あ:挨拶、じ:時間、み:身だしなみ、こ:言葉遣い、し:姿勢)の大切さを理解できるような指導(はたらきかけ)が行われている。	83.5%	84.9%	95.7%	85.7%
14	いじめ未然防止のための生活指導・教育相談・環境整備に努めている。	78.2%	72.4%	100.0%	85.7%
15	家庭と協力し、インターネット・SNSトラブルの未然防止に努めている。	80.7%	<u>68.6%</u>	82.6%	85.7%
16	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりする適切な進路指導が行われている。	81.9%	<u>64.9%</u>	100.0%	85.7%

NO.	質問	生徒 82.9%	保護者 63.5%	教職員 100%	評議員 77.8%
17	三者面談・キャリアパスポート・進路希望調査などを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。	85.6%	71.9%	95.7%	71.4%
18	運動会や文化発表会などの学校行事では、生徒が中心となって活動している。	93.8%	92.4%	100.0%	100.0%
19	生徒会・委員会活動などの生徒の主体的活動を促す指導（はたらきかけ）が行われている。	93.0%	85.9%	100.0%	100.0%
20	部活動の指導は適切に運営がされている。	88.1%	80.5%	95.7%	85.7%
21	特別支援教育に力を入れ、生徒同士の交流や共同学習を進めている。	84.4%	76.8%	82.6%	85.7%
22	授業体験や行事を通して南が丘小・南田中小と連携する活動を進めている。	76.1%	85.9%	100.0%	100.0%
23	セーフティ教室、避難訓練、などの安全指導の充実に取り組んでいる。	86.8%	89.7%	100.0%	100.0%
24	掃除が行き届き、施設・設備を含めてよりよい環境の整備に取り組んでいる。	86.4%	89.7%	100.0%	100.0%
25	給食の献立は工夫され、栄養のバランスが良く、安全である。	92.2%	85.9%	82.6%	100.0%
26	保護者や地域の方々は学校行事や授業公開に参加しやすい。	69.1%	85.4%	100.0%	85.7%
27	電話をしたり学校を訪問したりした際の教職員の対応は親切で好感がもてる。	—	88.1%	100.0%	85.7%
28	学校は保護者・地域に対して、学校の教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。	—	85.4%	95.7%	85.7%
29	学校は保護者・地域と連携しながら学校を運営しようとしている。	—	81.1%	95.7%	85.7%

II 学校関係者評価

1 総括

(1) 成果

- ① 2年のスキー保護者会で進路指導主任から学年を超えて進路について話してくれたことがとてもよかった。楽しい行事に子供は気持ちが向きやすく、保護者も耳を傾ける場面なので、タイミング的にもよかった。
- ② 問4（個に応じた指導）問7（家庭学習）についての保護者の評価が上がっている。ま

た、運動会・部活動についての評価も高く、保護者に見える部分（見えやすい部分）で安心していただけているのは、非常に良いことだと感じている。

- ③ 「ほっとすルーム」（校内別室）は学校の成果だと感じている。導入もスピーディーで不登校対策にもなっている。
- ④ 体験型の行事での事前・事後学習の発表を繰り返し行っているため、発表・プレゼンテーション能力は上がっているように思う
- ⑤ コロナ禍後の生活、授業、行事等に以前のような形で行いたいという想いが戻ってきているのではないかと思う。（質問 1、2、18 について）
- ⑥ タブレットの利用については、体育の授業での使い方（自分の動きを撮影し、良くない点を自分で確認し、改善する）をしていることに、時代が進んでいることを感じた。
- ⑦ 制服について困っていることなどを拾い上げて改善しようとする取組は、生徒や保護者にとっては非常にありがたいことだと思う。

（2）課題

- ① SNS 等のトラブルは未然防止での自己評価が低いことが課題である。SNS でのトラブルは、コミュニケーション能力が低いことが原因だと考えられる。地域の大人と話す機会が大切である。一人一人に寄り添う対応は、SC や SSW を活用するなど、多くの機会を活用してほしい。
- ② 小中の連携では、あいさつ運動年 2 回は季節的なもの、リトルティーチャーやシューズバンクは一部の生徒であることが、生徒の評価が低い要因ではないか。実際には挨拶運動は、小学校側からしてもありがたい運動で増やせるのであれば増やしてもらいたいという意見もある。
- ③ 教員の過密労働はなんとかしていかなければと感じる。子供たちに向けた時間を確保することが大切。金八先生が良い先生だと感じたが、金八先生が事務作業している姿は見たことがない。先生が子供に迎える時間が増えてほしい。
- ④ 学生の教員希望も少なくなっている。やりたいけどできない状況がある。学校の課題というよりは国全体の課題にはなる。学校として改善というよりはシステム的な変更が必要と思われる。

（3）改善策

- ① アンケートで教職員と生徒で開きがある項目は要注意である。生徒の中に、どうせ言っても変わらないと思っている部分もあると思うが、コミュニケーションをとって生徒の不安を受け止めることが大切である。
- ② 「ほっとすルーム」（校内別室）の開設はよかった。今後、どのように門戸を広げていくか、どのような対応ができるかさなる進化が必要である。
- ③ 個に応ずることは難しいが、学校としてどこまでできるか明確に示していくことが大切である。また、SSW などに頼れる部分は頼りながら、先生方に無理ができないようにバランスをとって進めてもらいたい。

2 根拠となる資料

- (1) 令和5年10月31日～11月13日実施の「学校評価アンケート」の肯定的な意見（4段階中「思う」「やや思う」の割合）
- (2) 令和6年2月21日実施「学校評議員会」のアンケート及び協議会での発言

Ⅲ 評価結果の公表等

- (1) 令和6年3月
 - ①学校ホームページでの公表
 - ②学校だよりでの公表
 - ③保護者会での説明

Ⅳ 次年度の学校改善に向けた校長の見解

【中期目標との関連】

- (1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実践

【中：進んで学び深く考え、積極的に行動する人】

- ①今年度11月末に、授業毎に生徒からの授業アンケートを実施する。授業のわかりやすさやICT機器活用などの10項目は4段階で、授業の感想などの3項目は記述式で行った。教員が授業の相対的な評価と主観的な評価を手にしたことで、授業改善の意欲を醸成できた。
- ②「家庭学習のすすめ」の発行、定期考査前の学習教室、長期休業明けのテストを行うことで、生徒が学習に取り組む方法や環境を作ることができた。これまでの家庭学習の基準を見直し、学習時間をミニマムな基準にするなど、生徒がより家庭で学習に取り組めるよう改善している。
- ③体育の授業では、準備体操において身体に負荷がかかるサーキットトレーニングを行っている。長期的に取り組む、確かな体力の定着を目指す。
- ④不登校生徒対応として、今年度より校内別室指導事業（本校名称「ほっとすルーム」）を始める。地域住民の支援を受け、教室運営をしている。定期的に通う生徒や試しで体験する生徒が、増えてきている。この事業は、保護者や学校評議員から、好評価をいただいている。

- (2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成 【中：思いやりの心をもち、互いに協力する人】

- ①来年度から夏用標準服にポロシャツを導入するにあたり、色や着用のルールを生徒に考えさせた。これは、生活のきまりを生徒自身が考える場を意図的に設けるために行った。これにより生徒は、きまりだけでなく、学校自治の意識も向上したと捉えている。
- ②「あじみこし」の取組は引き続き、保護者や来校者からも高い評価を受け、生徒たちも本校の良さとして認識している。来年度は、教育指針の自律を目指し、「し・せい：物事に向かう姿勢（心の姿勢）」を指導の柱に据え、心が伴った行動ができる生徒を育てていく。

③年度当初に情報モラル教室を実施した。しかし、相手を考えてのスマートフォンの使い方ができない1年生が多く、指導しなくてはならないトラブルもあった。学校が指導の中心ではなく、保護者・家庭が指導の中心となるよう、保護者に情報提供し保護者同士で共通認識をもてたり生徒が効果的に使えたりできる指導や啓蒙活動を進めて行く。

(3) 夢や希望を育む進路指導 【中：心身ともに健康で創造力のある人】

①本年度も2学年において職場体験、E組で上級学校訪問を実施することができた。また3月には、1学年で、区観光課と協力して区内で活躍されている方から、話をうかがえる機会を設けた。

②生徒が将来の在り方(理想とする自分像)を考え、それを深め、そこに到達しようと活動する本来のキャリア教育はまだ不十分であり、総合的な学習の時間や特別活動との連携も課題である。

③来年度はキャリア教育で教育課題研究指定校を受ける。総合的な学習の時間や特別活動との連携を含め、3年間を見通したキャリア教育が実施できるよう研修を進める。

(4) 地域に開かれた学校づくり 【中：開かれた学校づくり】

①コロナの法的な位置づけが変わり、6月の運動会・10月の文化発表会を全学年の保護者、学校評議員に観覧いただくことができ、活動や観覧の対応に肯定的な意見をいただけた。また、学校公開を年9回行った。内1回は道徳授業地区公開講座として保護者との意見交換も行えた。

②「ほっとすルーム」や地域未来塾などの事業において、地域住民や区内の大学生を活用して、運営している。

③ホームページは220回以上、記事を更新するなど、積極的に学校や生徒の活動の様子を発信して、本校の教育活動への理解が増すことができる活動は確実に行えた。

【まとめ】

今年度はコロナ開けの年度として、保護者や教職員から以前と同じように教育活動を進めてほしい、進めたいという要望はあった。しかし、教育活動の目的や働き方改革などを踏まえて、実施してきた。とにかく、無事に実施ができ、肯定的な評価を多く得られたことは、うれしいことである。

今年度取り組んだ大きな活動として、①校内別室指導事業の開始、②生徒による授業毎の授業アンケートの実施、③ポロシャツ導入に向け、生徒に色やルールの検討させる、の3つが上がる。校内別室指導事業は毎日通室し給食をとる生徒も出るなど、予想以上の効果を上げている。授業アンケートはformsを活用したことで、短時間に集計ができ、教員は生徒の直近の授業の意見を直接聞いたことで授業改善の契機となった。ポロシャツ導入に生徒が関わったことは、本校生徒としての当事者意識を上げることができたと感じている。

いずれも、これらの活動により、来年度の教育活動の準備が整ったと感じている。来年度、教育課題研究指定校を受けた恩恵を生かし、さらに、不登校対策や授業改善、生徒の成長を促す指導を進めて行きたい。